大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO

上方落語復活のまち・片江散策

～吉本寮跡地から楽語荘、桂米團治顕彰碑まで～

片江校下及び周辺では、昭和初期より昭和三十年代にかけて、「楽語荘」を中心として多くの芸人が住み、お互いに芸の切磋琢磨する芸人の町が形成されました。現在、このようなご縁もあってでしょうか東成では多くの寄席が開催されています。

⑧二葉館跡

女流浪曲師・富士月子が経営されていた演芸場で、ここで六代目笑福亭松鶴がデビューしました。富士月子は世話物、仁侠物などを得意とし、巧みな節回し「月子節」で人気を博しました。関西女流浪曲の女王として初代・春野百合子と並び称される大看板で、平成13年(2001)には2代目桂枝雀などとともに、「上方演芸の殿堂入り」しています。二葉館があった新橋通商店街は市電・今里終点(昭和2年・1927年開通)と今里新地(昭和5年・1930年開業)を結ぶ位置にあることから大いに賑わいました。四代目桂米團治は「上方はなし第49集」の中で、「これが即ち新橋通りと申し上げ奉って、この辺では繁華街にして歓楽街にして、商店街にしてカフェー街にして天丼屋街である。途中活動や浪花節の小屋や、煮抜き卵やアイスケーキなどいろいろ結構に飾り立てて…」と当時の商店街の様子を描写しています。

⑨四代目桂米團治顕彰碑(東成区役所内)

四代目桂米團治は道頓堀の生まれで、3代目桂米團治に入門。昭和11年(1936)に五代目笑福亭松鶴の主催する「楽語荘」に参加して「上方はなし」同人となり、「中濱靜圃」の筆名で編集・執筆に携わりました。その一方で、昭和13年(1938)に代書人(現在の行政書士)の資格を取得し、東成区役所近隣(現在の区役所敷地内)の自宅にて「中濱代書事務所」を開き、その経験から「代書」を創作しました。文化勲章受賞者・桂米朝の師匠としても知られ、他にも3代目桂米之助、桂米治郎、2代目桂べかこといった門下生がいます。また2代目桂あやめ(のちの5代目桂文枝)や2代目笑福亭松之助を自宅に下宿させたり、関西学院大学古典芸能研究部の顧問なども務めたりと、後進の育成に力をそそぎました。平成12年(2000)には第5回上方演芸殿堂入りとなっています。顕彰碑に刻まれた「儲かった日も代書屋の同じ顔」は四代目作の川柳で、この碑のために五代目桂米團治が書いたものです。

⑦演芸場「東楽園」跡

昭和5年(1930)開業の今里新地は、この敷地付近が当初建設予定地でした。家の丸窓に、その当時の建設構想が残っています。付近の家にも旅館の雰囲気が残っています。

⑥セルロイド御殿

豪華な手づくりタイルで装飾されている貴重な家で、セルロイド工場経営者の自宅です。東成区大今里西には、昭和6年(1931)に建築された大阪セルロイド会館が現存していますが、かつてこの地域にはセルロイド工場が数多くありました。ちなみに大阪セルロイド会館は、列柱構成と町家風という対照的な意匠を持つビルで、平成13年(2001)には文化庁により登録有形文化財(建造物)にも指定されています。

⑤「ちりとてちん」のロケ地(トコリン理容所)

戦後間もなく建てられたというレトロな床屋で、落語を題材にしたNHK朝の連続ドラマ「ちりとてちん」のロケ地になりました。

④三代目桂米之助住宅跡地

三代目桂米之助は、四代目桂米團治に師事した落語家で、兄弟子が三代目桂米朝です。六代目笑福亭松鶴から若手落語家の発表の場を確保して欲しいと要請され、昭和47年(1972)に自宅のある東大阪市にて「岩田寄席」を主宰し、若手の育成にあたりました。独力で20年ほど運営し、近畿における地域寄席の先駆けとして、「岩田寄席」の存在意義は大きいといわれています。また落語に対する知識が豊富で、その知識量は、三代目桂米朝も認めたといわれています。

③芸人の町・片江

昭和7年(1932)、落語家・二代目笑福亭枝鶴(のちの五代目笑福亭松鶴)が東成区片江町に転居しました。同じ頃、花月亭九里丸(漫談家)が片江町に、続いて横山エンタツ(漫才師)、都家文雄(漫才師)も近隣に転居し、片江町を中心に芸人の町が形成されました。昭和10年(1935)、二代目枝鶴が、上方落語の大名跡・五代目松鶴を襲名すると、翌年(1936)、自宅を「楽語荘」と名付けて同人を募り、『上方はなし』を発行。貴重な上方落語の資料を後世に伝えると共に、昭和12年(1937)には大阪・京都で「上方話を聴く会」を開始するなどして、後進の若手落語家の育成、指導に尽力しました。昭和初期より昭和30年代にかけて、この「楽語荘」を中心として多くの芸人が住み、六代目笑福亭松鶴、五代目桂文枝、二代目笑福亭松之助、三代目桂米朝、三代目桂米之助といった逸材が、お互いに芸を切磋琢磨しました。上方落語復興に果たした功績は極めて大きいといわれています。

②吉本興業社宅跡

戦前、浪曲の二代目広沢虎造などが一時住んでいた吉本興業の社宅跡です。その後、スケート場、プール場などを経て今はマンションになっています。広沢虎造は、浪花節に中京節の鼈甲斎虎丸や、関東節の木村重松らの節回しを独自に取り入れた「虎造節」で一世を風靡した浪曲師です。持ちネタは、国定忠治、雷電爲右エ門、祐天吉松など多岐に渡っていますが、中でも人気を博したのが清水次郎長伝で、森の石松を題材にした「石松三十石船」の「寿司を食いねえ」「馬鹿は死ななきゃなおらない」といったフレーズは、ラジオ放送の普及も相まって、国民的な流行語となりました。

①風月寄席

五代目笑福亭松鶴の孫さんらが支援する地域寄席です。これまでに出演された落語家の色紙がたくさん残されています。戦前から近鉄今里駅付近は、二代目桂三木助をはじめ、数多くの芸人たちが居住していました。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。